

第18回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	最優秀賞
作品	初雪のニュースに映る君の街
作者	山田 知明
住所	神奈川県
講評	「今朝どこそこに初雪がありました」と、私たちは毎年目耳にする。そこに映った映像は大好きな彼女の住むあの街。早速メールしてみよう、いや声が聞きたい…。ここからまた一歩恋が前進するのであろう。一読明解。

賞	優秀賞
作品	ふたりきりスノードームの雪止んで
作者	まさしお
住所	東京都
講評	荒れ狂うドームの中の雪が少しずつずまり、やがてひたと動きが止まると、今まで感じなかった静寂が一気にふたりを包む。動くものもなく、わずかな音もない…。あるのはふたりの心音だけ。このままいつまでも続いてほしい時間である。
作品	雪搔きへ新幹線に乗ってゆく
作者	松下弘美
住所	埼玉県
講評	恋というものは不思議なもので、真剣な行いも言葉も、あとから思い起こすと笑い話だらけである。大昔からつづく雪と最先端の技術の粋が句の中で自然に生かし合っている。作為もなく面白い。

第18回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	佳作
作品	たのしげにベトナムに雪ないという
作者	藤井 きょうこ
住所	広島県
講評	近年ベトナムからの訪問者がふえている。就労であれ、観光であれ、雪はもっとも興味深いもののひとつらしい。「たのしい」という言葉は俳句ではあまり成功しない言葉である。しかしこの一語によって雪に戯れる笑顔が一気に見えてくる。最少にした的確な素材である。
作品	ポケットに手紙押し込め雪下す
作者	田中 安来
住所	埼玉県
講評	「押し込め」がすべてを語っているよう。積もりに積もった屋根の雪に向かう時、計らずも不本意な手紙がとどいた。不安と失意とわずかな望みを抱えて屋根に登る。また雪が降り出しそうだ。
作品	亡き人にまだ投げている雪つぶて
作者	山崎 秀雄
住所	埼玉県
講評	生前のふたりの様子がいろいろに想像される。この雪つぶて、はたして空へか、水へか、それとも大きな樹へ投げなのか。いとしい、憎い、可愛い等の言葉を言わずともそれ以上に思いの伝わる好句である。

第18回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	入選
作品	永遠をかんとんに言ふ雪のなか
作者	野口登美子
住所	徳島県
作品	雪起こしこれから母はひとり住む
作者	門脇 かずお
住所	鳥取県
作品	雪野原老いても夫は夢見がち
作者	海老原 順子
住所	茨城県
作品	窓に雪幾何学の問君と解く
作者	林 雅則
住所	千葉県
作品	恋が走り出した雪が降り出した
作者	林田麻裕
住所	京都府
作品	恋をする二人が作る雪だるま
作者	石川明世
住所	岩手県
作品	雪下しするに艶めく人妻よ
作者	五島洸
住所	東京都
作品	同じ道歩いて違う雪景色
作者	やんちゃん
住所	福島県

第18回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	入選
作品	雪晴れや介護の母の布団干す
作者	乙女ちゃん
住所	栃木県
作品	雪の朝墨絵のように船がゆく
作者	高森 紀代
住所	兵庫県
作品	花いちもんめあなたが欲しいと雪女
作者	笑美子
住所	東京都
作品	産室に吾子の眠りや窓の雪
作者	細見康子
住所	岐阜県
作品	フロントの雪溶けるまで二人きり
作者	律儀者の子沢山
住所	兵庫県
作品	降る雪を送るスマートフォンの恋
作者	正雪
住所	山形県

選者:大類つとむ氏(山形県現代俳句協会会長、俳誌「陸」「街」同人)

応募作品数 : 3,471作品